

熊本大学医学部附属病院

研修医 加藤 麻衣 2016年10月

熊本大学病院初期研修医2年目の加藤麻衣と申します。地域医療研修プログラムのため、10月に研修させて頂きました。

1か月間の研修の間、野田診療所、高尾野診療所、出水保健センター、上場診療所と院外の様々な場所を訪れ、また院内でも脳神経外科をはじめ看護部、臨床工学科、臨床検査科、リハビリテーション技術科と非常に多岐に渡り勉強をさせて頂きました。

最初の2週間は、2つの診療所での外来診療と検査が主な研修内容でした。地域の特色として高齢者が多いことは想像しておりましたが、実際に見てみると80歳代や90歳代の患者が多く、予想よりも平均年齢が10歳ほど高かったことが印象的でした。また、これまでの大学病院では内視鏡等の検査手技や外来診療を自ら行う経験はなかったため、最初はどのように振る舞えばよいのか分からず戸惑いもありました。しかし慣れてくると手は少しずつ動くようになり、患者との世間話から病歴・生活歴以外にも社会的背景の問題が見えてくるようになりました。もともと高齢のため複数の慢性疾患を抱えている患者も多く、そういった問題の多い場合のアプローチの仕方を学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

上場診療所でも外来診療を経験し、前述の診療所よりさらに限られた医療資源で地域住民の健康を支えている様子を経験させて頂きました。

そして出水保健センターでは、乳幼児健康相談、3歳児健診に参加させて頂きました。ここでは保健師、看護師、歯科衛生士、臨床心理士など多職種の方々が支援の必要な子供や家庭を見逃さないよう細かくチェックしており、医療的支援を要する家庭だけでなく、母親の日常の子育ての悩み等も気軽に相談できる場所として機能していたことが印象的でした。

後半の2週間は出水総合医療センターの中での研修でした。脳神経外科を選択させて頂きましたが、ここでも高齢の方が多く、さらに脳血管障害の後遺症を抱えている患者が大半でした。介護する側の家族の年齢も予想していたよりもずっと高く、日本が直面している高齢社会に伴う問題を改めて認識させられました。また、急性期の治療はもちろん、回復期病棟では社会復帰に向けての課程も勉強させて頂くことができ、非常に新鮮でした。医師の側からだけでなく、看護部、リハビリテーション技術科など多職種連携についても経験させていただき機会を設けていただき、チーム医療についての理解をいっそう深めることができました。

また、子供の頃は出水に住んでおり、今回の研修はちょうど鶴が渡来する時期でしたので、約15年ぶりにその姿を見ることができて大変嬉しく思っております。夜は星空が綺麗で、仕事を終えて空を見上げるのが楽しみでした。自然が美しいこの地で充実した研修を送らせて頂いたことに心より感謝しております。1か月間お世話になった皆様、本当にありがとうございました。